Case Study　聞き手を引きつける発表技術を身に付けなければ!

実際のビジネスシーンを想定して、プレゼンテーションの進め方について考えてみましょう。

家電製品の製造および販売を行うFOMエレクトロニクス株式会社の商品企画部に所属する森田和樹さんは、キッチン家電の商品企画を担当しています。
1週間後に控えた販売店様向け新商品発表会で、発電機能付き炊飯器のプレゼンテーションを担当する森田さんは、同僚に立ち会いを依頼し、リハーサルを行うことにしました。

さて、森田さんはどのようなリハーサルを行ったのでしょうか。

×　この事例の悪いところは?

森田さんのリハーサルの様子は、図のとおりです。
このリハーサルの様子から、森田さんの発表技術について、どのような点に問題があるのかを考えてみましょう。

【森田さんのリハーサルの様子】

こうすれば良くなる!

森田さんは、本番までに、もう少し発表技術を磨く必要がありそうです。
聞き手を引きつけるプレゼンテーションを実施するためには、どのようにリハーサルを進めたらよいかを確認しましょう。

❶立ち会いは数人に依頼する

森田さんは同僚1人に立ち会いを依頼したようですが、立ち会いが同僚1人だけとなると、つい評価が甘くなったり、見落としが生じたりする可能性があります。立ち会いリハーサルには、できるだけ2〜3人の人に立ち会ってもらい、複数の目で評価してもらうようにします。可能であれば、同僚だけでなく、上司にも立ち会ってもらうとよいでしょう。

❷自分の主張に自信を持つ

森田さんはいかにも自信がなさそうです。発表者のちょっとした表情や態度は、聞き手の聞こうという姿勢に大きく影響します。発表者は自分の主張に自信を持って堂々とプレゼンテーションに臨み、聞き手を自分の世界に引き込むように努めましょう。

❸服装や身だしなみをおろそかにしない

だらしない服装や身だしなみは、聞き手の印象を悪くします。聞き手の前に立った時点で、すでにプレゼンテーションは始まっていると考えなければなりません。たとえリハーサルであっても、本番同様の緊張感を持って臨みましょう。特に本番のプレゼンテーションで聞き手が自社以外の人である場合は、失礼のないように注意する必要があります。
また、服装や身だしなみの他、美しい姿勢を保ち、堂々とした姿勢で話すことも重要です。

❹シナリオを作成する

話す内容を忘れてしまったり、伝えるべき内容に漏れがあったりすることのないように、スライドごとに要点や補足事項などをまとめたシナリオを作成しておきましょう。シナリオが手元にあるだけでも、落ち着いて話をすることができます。